

# 農林水産大臣賞受賞

『「ひこばえの森」と「水車村」を拠点に環境保全活動と  
交流が広がるむらづくり』

受賞者 <sup>だい</sup> **第 1 2 区** <sup>くじちかい</sup> **自治会**

<sup>いわてけんいちのせきし</sup>  
(岩手県一関市)

## 地域の沿革と概要

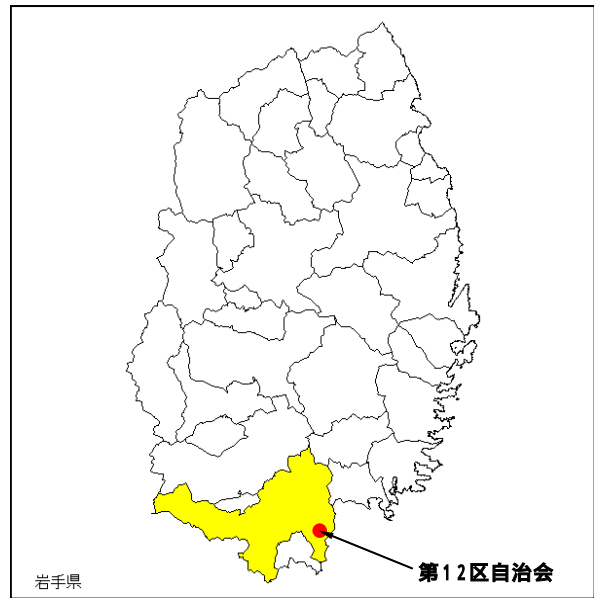
一関市は、岩手県の南端に位置し、総面積が約1,133km<sup>2</sup>、東西約63km、南北約46kmで県内一の規模を誇っており、西は秋田県、南は宮城県に接し、特に宮城県北との交流が盛んな都市である。西部に奥羽山脈がそびえ、栗駒国立公園栗駒山の雄姿が眺望でき、東部は北上高地となっている。

市の中央部を北から南に北上川が流れ、これに注ぐ支流の奥羽山系を源とする磐井川には中流域に渓谷美を誇る巖美渓、北上高地を源とする砂鉄川には石灰岩地帯を深く刻み込んだ日本百系の猊鼻渓などがあり、豊かな自然に恵まれている。

気候は気温の日較差、年較差が比較的大きく、内陸型の特徴を示しているが、岩手県南端に位置することから、県内では比較的温暖な地域となっている。市の西側、奥羽山系沿いの高標高地帯では冬季は雪に覆われ、夏季は冷涼な気候となり、これを利用したリンドウ栽培が行われている。東側はやや標高が高く、夏の暑さを利用して果菜類や花きの栽培が盛んな地域となっている。

土地の総面積の約5割が山林で占められ、次いで田、畑が約2割となっており県内では比較的農地の割合が高い地域で、就業人口に占める第1次産業就業者の割合は

第1図 位置図



白地図 KenMap の地図画像を編集

第1表 地区の概要

| 事項              | 内容  |
|-----------------|---|
| 地区の規模           | 集落の集合体 (2集落)  |
| 地区の性格           | 地縁的な集団  |
| 農家率<br>(内訳)     | (内訳) 90.2%<br>総世帯数 92戸<br>農家数 83戸   |
| 販売農家数<br>(内訳)   | 80戸<br>(内訳)<br>専業農家 7戸<br>1種兼農家 10戸<br>2種兼農家 63戸  |
| 主要作物<br>(農業産出額) | 総産出額 (92百万円)<br>水稻<br>豆類 (内訳不明)<br>たばこ  |
| 農用地の状況<br>(内訳)  | 耕地計 65.8ha<br>(内訳)<br>田 31.4ha<br>畑 29.9ha<br>樹園地 4.5ha<br>耕地率 24.8%<br>農家一戸当たり農用地面積 0.79ha |

、15.8%（平成17年国勢調査：第2次産業32.4%、第3次産業51.6%）となっている。

## むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

第12区自治会は、一関市の東端の室根町に位置し、総面積は265ha、世帯数92戸、人口365人の小さな集落である。市の中心部まで約40km、自動車でも70分程度の時間を要する地区となっている。集落の東側には風光明媚でハイキングコースとなっている室根山があり、その南方に矢越山がある。矢越山周辺から流れ太平洋に直接注ぐ大川が集落の中心部を通っており、これに沿って耕地が拓けている。

総世帯数92戸のうち農家数は83戸（うち専業農家7戸）であり、農家人口281人、農業就業人口105人と農業に従事する割合の高い地域となっている。農家1戸当たりの平均耕地面積は約0.79haと比較的小規模な農家が多く、昭和40年代に整備された5a～15a規模の水田における稲作が主体で、他に葉たばこや畜産（肉用牛）などによる複合経営を行っている。

### 2. むらづくりの基本的特徴

#### (1) むらづくりの動機、背景

旧室根村（現一関市室根町）では、昭和54年度に国土庁の「特色あるむらづくり事業」の指定を受けたことを契機として、新たな地域づくりに伴う社会教育活動などを住民自らの手で行うことを目的として、全地域の行政区毎に20の自治会が結成され、第12区自治会も昭和57年に結成された。

自治会結成以来、花いっぱい運動を通じた集落の美化、資源ゴミや粗大ゴミ回収などの公衆衛生活動、河川清掃などを実施するとともに、山林の下刈り作業や環境問題に関する講演会を開催する等し、集落の環境保護に対する意識改革の基盤が形成されていった。こうした活動の中で、山の保水力や保肥力を高め、海に向かって適切な水分・養分を供給することが安全で安心な水産物の安定生産につながっていることを再認識し、宮城県気仙沼市唐桑町の牡蠣養殖漁家で組織する「牡蠣の森を慕う会」との連携により、平成元年から室根山や矢越山周辺における広葉樹の植樹を進めてきた。

また、毎年6月第1日曜日に実施する広葉樹の植樹を全体的に統括することを目的として、自治会役員を中心に平成5年に「ひこばえの森分収林組合」を設立し、植樹場所の選定、準備、苗木の手配、賛同企業への協力要請、植樹祭当日の運営・管理等の活動を行っている。この組合設立を契機に植樹活動は「森は海の恋人植樹祭」として開催され、現在では趣旨に賛同する参加者が全国から訪れている。

平成4年には、集落の若者たちの企画により「水車のある集落づくり構想」を策定し、以前にあ



写真1 水車小屋「こっとんこ」

った水車小屋を復元するとともに、この場所を中心として、毎月1回「こっこんこ市」や植樹祭に併せた「水車まつり」を開催している。

これらのイベントは、地域内外の人が集まる機会となり、地域で収穫された農産物やその加工品とともに、唐桑町漁家の協力による海産物も合わせて販売されており、地域の活性化の一翼を担っているとともに、唐桑町との結びつきを深め、産直活動のほか、子どもたちの海あるいは森の体験学習等につながってきており、多彩な交流に発展してきている。

## (2) むらづくりの推進体制

第12区自治会は、地区の住民92戸で構成し、「暮らしを守る住民自治」、「暮らしを豊かにする住民自治」、「住民総参加の地域づくりのための住民自治」の達成を目的とする住民組織である。会には7つの専門部（総務部、産業部、文化部、体育部、生活環境部、防災部、福祉部）を置き、広報の発行・敬老会、植樹祭・産業祭（水車まつり）の開催、夏祭り行事・お正月行事、各種スポーツ行事、環境クリーン活動、防災訓練、子育て支援活動など多面的かつ活発な活動を行うことで、むらづくりを推進している。

自治会の下部組織として、「ひこばえの森分収林組合」と「水車村」を設置しており、自治会を含めこれら3組織と他の様々なグループがそれぞれ、あるいは一緒になって話し合う機会をつくりながら地区内の合意形成を図るとともに、諸機能の役割分担と創意工夫により一体的な活動を行っている。

なお、第12区自治会と緊密に連携し、むらづくり推進を行っている地域の組織として次の組織がある。

### ア 自治活動組織

#### 部落会

第12区自治会の全戸で構成されている集落の基本的な組織で、「弥栄サークル」、「むつみ会」、「いちまる会」の3組織があり、地域の河川清掃、道路愛護作業、花いっぱい運動などの環境美化等の活動を行っている。

#### ひこばえ子供会育成会

第12区内の室根西小学校児童の保護者で構成する組織で、親子レクリエーションや地域の郷土芸能である打ち囃子・七福神舞の指導を行っている。「森は海の恋人植樹祭」の開催準備や植樹に参加する子どもたちの支援や地区会館の清掃活動を行っている。

#### 上折壁第2老人クラブ

第12区の65歳以上の高齢者で組織され、花壇の整備や清掃活動など地区の環境整備を行っている。また、地区の子供会育成会や地区PTAと連携し、地域の伝統文化の伝承に取り組んでいる。

### イ 農産物生産・加工組織

#### 上折壁農家組合

第12区自治会の農家79人で組織され、地域の農作業の受託やラジコンヘリを使用した病害虫の共同防除等の生産コスト低減に向けた活動を行っている。また、農産物品評会では、かぼちゃなどの農産物を出品している。

#### ふるさとの味伝承の会

第12区の女性6人で組織され、地域伝来の「矢越かぶ」を主体とした特産品開発に取り組んでおり、第12区自治会の主催するイベント等で加工品の販売を行っている。

平成9年には矢越かぶを使った「かぶ蒸かし」で岩手県の食の匠に認定されている。

#### 室根12区農産物加工組合

平成21年4月に第12区自治会の有志7人で組織され、矢越かぶの栽培、加工販売に取り組んでいる。室根町内にある産直施設で「かぶ蒸かし」を販売し、好評を得ている。

### ウ 交流イベント組織

#### 牡蠣の森を慕う会

唐桑町の牡蠣養殖漁家で組織し、森 - 川 - 海とつながる生態系の保全活動を行っている。第12区自治会と共催した「森は海の恋人植樹祭」や地区子供会の行事などで交流を行っている。

### エ 教育関係組織

#### ひこばえ自然愛護少年団

第12区自治会内の小学校児童で組織され、地域の清掃作業や森林の下刈作業など、環境美化、森林愛護活動に取り組んでいる。

#### 室根西小・室中地区PTA

第12区自治会内の小中学校児童生徒の保護者等で組織され、ひこばえ自然愛護少年団とともに「森は海の恋人植樹祭」に参加し、植樹活動を行っている。

また、地域の農地を利用し、子どもたちに田植えや稲刈り等の農作業体験を老人クラブと連携し支援している。

### オ 自治会下部組織

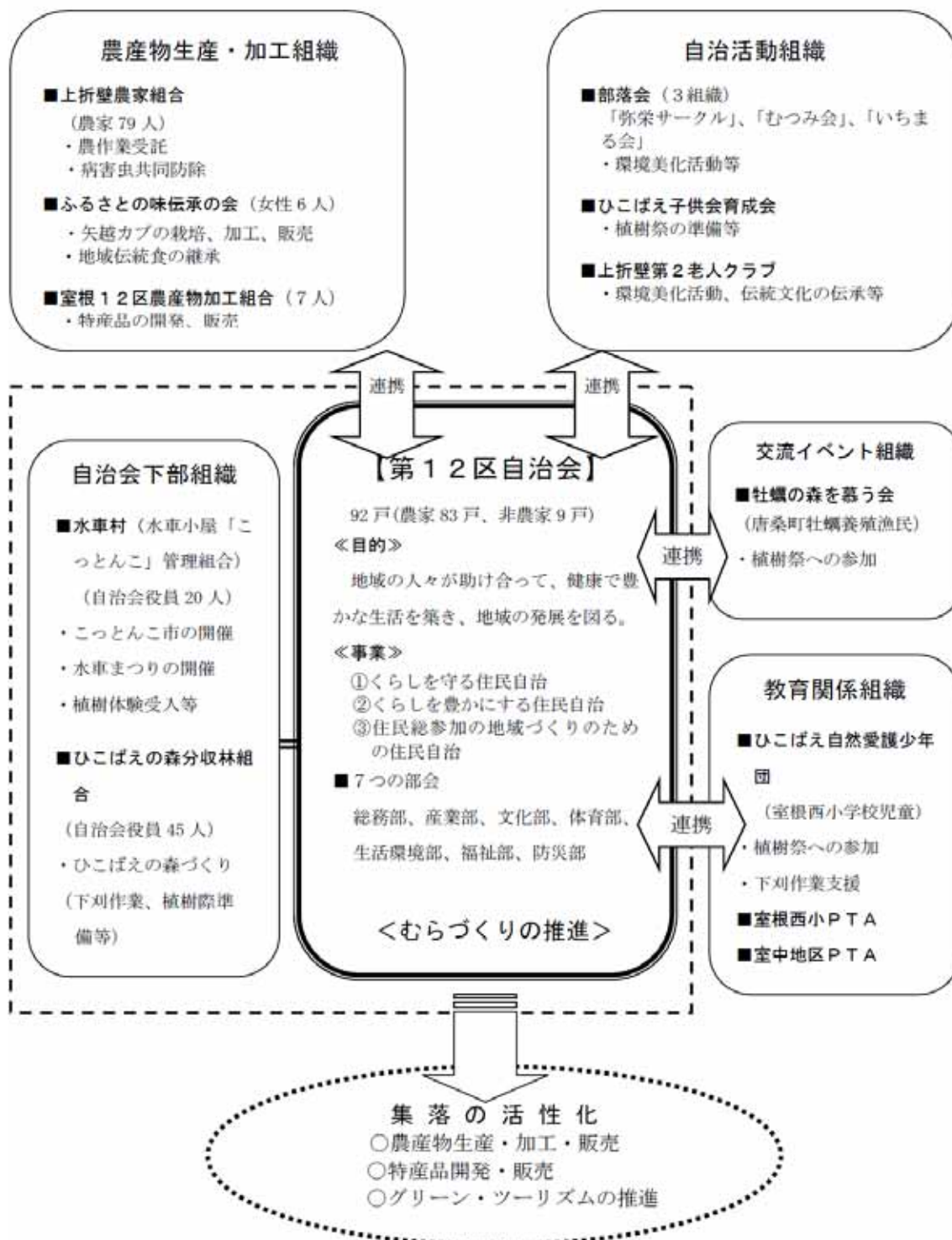
#### 水車村

第12区自治会員20人で組織し、会員の奉仕活動により建設した水車小屋（こっこんこ）の管理運営を行っている。植樹祭と併せて開催される水車まつり、月1回開催のこっこんこ市、リサイクル資源回収事業、環境保全型農業の推進に取り組んでいる。

#### ひこばえの森分収林組合

第12区自治会員45人を組合員として設立し、植樹地域の下刈作業や植樹祭の準備等を自治会、水車村と一体となった活動を行っている。

第2図 むらづくり推進体制



むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

第12区は、農業生産の基盤となる農地は沢沿いの急傾斜地が多い典型的な中山間地で、大型の農業機械が入れず、農道や水路の管理にも手間がかかるなど厳しい環境での農作

業を余儀なくされている地域である。また、集落住民の高齢化や過疎化の進行により、耕作放棄地が増加し、農作業の継続や集落機能の低下が懸念されていた地域であった。

しかしながら、様々なむらづくり活動に取り組む中で、その一つであった環境保全活動について地区民の意識が高まり、広葉樹の植樹から始まった活動が、地域伝統食を復活させ、地域外各地の人々との様々な交流につながるなど、豊かで潤いのある活発なむらづくり活動が実践されている地域である。

## 2. 農林漁業生産面における特徴

室根地区第12区では集落住民の高齢化や過疎化が進み、農作業の継続が厳しい状況にある。このため、第12区自治会が中心となって担い手農家と連携し、農作業の共同化を進めている。

また、地区の女性組織や加工組合が地域伝来の矢越かぶを復活させ、これを特産加工品として商品化し販売する活動に取り組んでいる。

### (1) 農作業の共同化による低コスト生産の取組

室根町は耕地が少なく生産額は小さい地域であるが、水稲と畜産経営を行う農家が多く、第12区は町内の約10%を占める生産額となっており、肉用牛経営が22戸と比較的多くなっている。これらの肉用牛生産者は、牧草の刈取りや乾燥作業を5戸の生産者に集約し、農業機械の有効活用を図っている。

また、第12区自治会では、水田の耕起、代掻き、田植え、稲刈等の基幹作業を上折壁農家組合構成員の担い手農家へ委託している。担い手と集落で作業分担を行うことにより、持続的な農用地の有効活用につながっている。病虫害対策では省力技術として、ラジコンヘリを使用した共同防除を行い効率化を進めている。このように作業受託面積の拡大や必要最低限な農業機械整備により、生産コストの削減を図っている。

### (2) 環境保全型農業による減農薬・減化学肥料生産の取組

第12区自治会の地域づくり方針として策定された「水車のある集落づくり構想」では、具体化の手段として環境保全型農業の推進に取り組んでいる。

#### ア 減農薬生産の取組

平成3年に旧室根村（現一関市室根町）を含む東磐井地域でアイガモ農法に先駆的に取組、水稲の減農薬栽培を行っている。収穫した米は「アイガモ米」として、多い年で全国200人の消費者に直接販売され、好評を得ている。

また、平成6年には地区内に炭焼窯を建設し、木炭や木酢液の利用を進めており、土壌改良材などに利用されている。

#### イ 減化学肥料稲作の取組

減化学肥料稲作では、堆肥等の有機物資源やEMぼかしを積極的に活用し、肥沃な土づくりを推進している。

(注)「EMぼかし」とは、バクテリアの仲間が集まったグループであるEM菌を米糠などに入れて、EM菌を大量に増やした粉状の肥料。

### (3) 地域資源を活用した特産品(矢越かぶ)の開発

矢越かぶは、以前から室根地区においてご飯の高増し材料として伝統的に栽培されてきた食材である。一時は絶滅寸前だったものを第12区自治会が栽培を復元させている。野生に近く、甘味があり、食物繊維、ミネラル・ビタミンCが豊富なかぶで、「かぶ蒸かし」は、平成17年に岩手県食文化研究会「岩手に残したい食材30選」にも選定されている。



写真2 地域の伝統食材「矢越かぶ」

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) 森は海の恋人植樹祭

第12区自治会は「森は海の恋人」をテーマに唐桑町の牡蠣養殖漁家で組織する「牡蠣の森を慕う会」とともに、平成元年から広葉樹の植樹を行っている(平成5年からは室根山の隣の矢越山の「ひこばえの森」で開催)。

会場には大漁旗が掲げられ、全国から訪れた参加者によりケヤキ、ブナ、ヤマザクラなどの広葉樹が毎年7百本から1千本が植えられ、水源涵養の森づくりを進めている。これまでに植樹した本数は3万本、面積にして13ha、参加者は集落人口の約27倍にあたる述べ1万人を越えている。



写真3 森は海の恋人植樹祭

20年間の植樹により大川の水質が改善され、赤潮に悩まされていた海も青さを取り戻し、水質が良くないと見ることができないウナギが数十年ぶりに海に帰ってきたと唐桑町の漁家は語っているなど、成果はいろいろな形で現れている。

さらに、平成14年からは、育樹作業としてこれまでに植樹した場所の下草刈作業や森の観察等を取り入れ、森を育てることの大切さやその過程を学べる体験を取り入れている。

### (2) 手づくり水車小屋「こっとなこ」

クリーンエネルギーである「水車」を地域の力で復元し、豊かな清流づくり、様々な産業の振興、手づくりの魅力ある集落づくりなど様々な思いを込め、環境保全活動のシンボルとして、会員の特技を活かした奉仕活動により手造りの水車小屋を建設し、「こっ

とんこ」と名づけている。この水車小屋の隣には「ひこばえの森交流センター」が併設されており、様々な交流活動に利用されている。

毎月1回の「こっとんこ市」や植樹祭に併せた「水車まつり」が開催された際には、地元で生産された農産物や加工品を販売しており、同地区のPRや活性化につながっている。



写真4 水車まつりで農産加工物等を販売

### (3) 体験学習の推進

地元の自然愛護少年団をはじめ、盛岡市や仙台市の中学校の体験学習を受け入れ、子どもたちの植樹や下刈り作業を通じた森林機能の学習を支援している。

一方、気仙沼市唐桑町に対して、子どもたちを派遣し、養殖作業をとおした漁業の営みや環境保全の重要性について理解を深めさせるとともに、体験用の手漕ぎ船建造の材料として室根町産の木材を提供するなど、地域間交流に努めている。

また、近隣の小・中学生を対象に、水車小屋の力を利用して石臼で米や麦を製粉する体験学習を行っている。

### (4) グリーン・ツーリズムに向けた取組

「森は海の恋人植樹祭」は身近な環境の保全活動として小・中学校の教科書に掲載され、農山漁村地域の環境保全を語る代名詞ともなっていることから、近年は体験型教育旅行として植樹体験を希望する学校が増え、平成20年度は全国から10校、831名の小中学生が室根地区で植樹体験を行っている。

今後は、植樹体験と抱き合わせた農作業体験メニューの提供により、グリーン・ツーリズムの推進に取り組むこととしている。

### (5) 環境美化・環境保全活動の推進

第12区自治会の生活環境部では、環境クリーン活動として地域を流れる大川の河川清掃、道路愛護作業や林道愛護作業を、美粧化活動として花いっぱい運動やサツキの保全管理を行っている。

また、地区公衆衛生組合と連携し、年2回の地区内一斉清掃や粗大ゴミ回収、水車村との連携による資源ゴミ回収を行っている。

この活動は地域の環境美化に留まらず、河川流域の環境美化、環境保全につながっている。

### (6) 地域の伝統文化の伝承

第12区自治会の文化部では、地区の老人クラブの指導により12月には正月松飾り作り、1月の小正月には繭玉作りを行っている。

また、正月行事の中で小学生の凧作り指導を復活させるなど、地域の伝統文化の伝承に取り組んでいる。